

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100096		
法人名	社会福祉法人 揺籃会		
事業所名	グループホームゆうあいの郷		
所在地	樺戸郡浦臼町字キナウスナイ188番地70 (電 話) 0125-69-2800		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年6月15日	評価確定日	平成19年7月10日

【情報提供票より】（平成19年5月25日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	8人

（２）建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ～ 1階部分		

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,800 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

（４）利用者の概要 (5月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	2	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86 歳	最低 81 歳	最高 92 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	新雨竜第一病院内科・深川第一病院眼科・はらおか歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の母体法人である特別養護老人ホームは、町からの要請を受けて開設され、事業運営の中でグループホームの必要性を背景に「グループホームゆうあいの郷」を開設した。行政との連携は密に取れており、地域に受け入れられ、地域密着型としての協力体制が整っている。また、職員は、自然豊かな環境の中で利用者が自由に且つ役割を持って支え合い、安心して暮らせるような支援を実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価での改善課題であった、「利用者の権利の明示」「危険物の保管方法」について管理者・職員共に検討し、改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	運営者をはじめ全職員が自己評価・外部評価の重要性を認識している。また、業務の見直しやサービスの改善の機会と捉えており、会議にて検討して意見交換を行い、共に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	会議において事業所は、家族からの要望・自己評価・外部評価の説明・改善報告等、日々の取り組み状況を報告している。また、委員からの意見を受けて全職員で話し合い、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	職員は、利用者の暮らしぶりや健康状態・金銭出納状況を家族に細かく報告している。また、来訪時に声かけをして家族からの意見を聞き、全職員で検討して運営に反映させている。外部の苦情窓口については公的機関に加え、第三者委員やオンブズマンの窓口も明示されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	事業所は地域の行事に参加したり、近隣住民を事業所の行事に招待するなど地域との交流に努めている。また、近隣住民が事業所の周りに植栽するなど環境整備の協力を得ている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由で安心して楽しめる環境づくり～ゆとりと安らぎのある空間～」と分かりやすい言葉で独自の理念をつくりあげている。	○	地域密着型サービスの特徴である「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」とする内容は、事業計画において取り上げられている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を把握しており、毎月のケア会議や毎日のミーティング時に確認しながら日々のケアに取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域との繋がりを持ちながら暮らすために、町のフェスティバルや敬老会等の行事に参加したり、小学校の運動会を見学するなど地域との交流に努めている。	○	今後も孤立することなく地域の行事に参加し、密なる交流を図ることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や日々のミーティング時に評価の意義を検討し、確認している。また、前回評価についての改善課題も即検討し、具体的な改善に取り組んでいる。職員は外部評価・自己評価共に業務やサービスの改善の機会と捉えており、質の確保・向上に繋げている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域住民・行政及び関係職員にて2ヶ月に1度開催している。その際、家族からの要望・自己評価・外部評価の説明・改善報告・日々の取り組み状況などの情報提供を行うとともに、委員からの意見を受けて職員と話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は町から全面的な協力を得ている。また、月に1度の地域ケア会議には、町の職員・民生委員・保健師・施設関係者が参加し、情報・意見交換を行うことにより共に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便り送付時や家族来訪時に、利用者の日々の暮らしぶり・健康状態・金銭出納状況等を報告している。また、利用者の状態変化や通院状況も必要に応じて電話にて伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に職員は、日々の状況報告や意見・要望の聞き取りを行い、職員間で検討し運営に反映させている。また、外部への苦情相談窓口の案内は重要事項説明書や居間に明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム便りや来訪時に職員交代について家族に報告すると共に、利用者が混乱を招かないような配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は内外研修の年間計画を立て、職員の質の向上に積極的に取り組んでいる。また、外部研修を受けた職員はミーティング時に研修内容の報告や資料提供を行い、全職員が学べる機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、管理者や職員が月に1度行われている管内の主任・ケアマネジャー研修等に参加し、他の事業所にて実習を行うことにより、同業者と交流する機会を設けサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者宅を事前に訪問し、要望や不安等に答えると共に、利用者と家族が共に事業所を見学してもらい、信頼関係を築きながら本人が安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意な事を見極め、声かけを行い場面づくりの支援が行われている。また、利用者の経験から料理や子育て・畑仕事等について教わる関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思い・希望を取り入れ、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者・家族とのコミュニケーションを大切にしており、来訪時には積極的に声掛けをして意見を聞き、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行い、日々のミーティングにおいて利用者の身体状況について話し合い、変化に応じて計画変更をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や状況に応じて、外泊や外出の送迎など柔軟な支援を実践している。	○	ショートステイへの取り組みも視野に入れており、居室の確保も図っていることから、更に検討を進め将来的に実行することが期待される。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には、利用者の状態を文書にて医師へ伝え、受診結果についても医師から文書にて報告されている。また、定期的に内科・眼科・歯科医による往診を受けている。さらに緊急時には近隣市町村の病院にて受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時に駆けつけられる医師がいないため、今のところ終末期ケアは検討していない。長期的に身体介護が必要になった場合は、隣接している特別養護老人ホームへ転居することを家族も了承している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する記録や情報に関しては、全職員が秘密保持の徹底を図っている。また、日々のケアにおいてはプライドを損ねることのないような配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話を通して利用者の思いを察知し、好きなことを一緒に行うよう心掛けている。一人で過ごしたい利用者には居室にて会話をするなど利用者のペースに合わせながら、会話の時間を多く取っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの役割ができており、全員で食事の準備を行っている。食事中には利用者同士が語り合ったり教え合うなど、食事の時間を大切にしたい支援が実践されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯を利用者に合わせた週に2回の入浴支援を行っている。また、入浴中に歌ったり音楽を聴くなど、入浴を楽しめるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量を把握し、植物の管理・畑仕事・食事の準備など本人の力を発揮できる機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出する機会を多くし、散歩や畑仕事など自然に触れる事を大切にしている。また、隣接している特別養護老人ホームの協力を得て車で遠方まで買い物に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理念に掲げている「自由で安心した暮らし」を大切にし、鍵をかけない支援を実践している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて年に2回避難訓練を実施している。災害時には隣接している特別養護老人ホームとの連携や消防署と直接連絡取れるような協力体制が整っている。また、各家庭や各事業所に無線が設置されており、行事や緊急時災害連絡が全町民に向けて発信されるなど心強い体制が取られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好も考慮し、食べる量・栄養バランス・持病のある利用者のカロリー等に配慮した支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には、利用者が作った俳句や折り紙が飾られ、台所カウンターには利用者手書きの毎日の献立表が置かれている。また、居間には大きなソファやテーブルなどがあり、利用者が思い思いの場所で過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体的機能低下に備え、ベッドは昇降式となっている。また、各居室にはタンス・仏壇・写真などが置かれ、利用者が居心地良く過ごせるような工夫がなされている。		

※  は、重点項目。